

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ドラマーセオリー		授業形態/必・選	講義	必修
		ドラマーセオリー I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験24年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。 ドラムの教則本を出版。					
授業概要						
ドラマーとして必要なあらゆる知識の習得を目指す。世界共通で使用されているドラム譜の読み書き、音符の認識、音楽理論、楽器の基礎知識を学ぶ。						
到達目標						
確かな知識の裏付けされた楽器演奏の習得を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	一年間の自身の音楽活動と到達目標に関するディスカッション ・ミュージシャンとしてのルールと挨拶について ・イベント(ドラムパフォーマンス)について ・アンサンブル、DAW、音楽理論についての確認					
【前期】 6～10回目	スコアリーディング① ・音符、休符の解釈と記譜法、一般的なドラム譜の書き方 ・音の名称、全音半音、スケール、コード基礎					
【前期】 11～15回目	スコアリーディング② ・リズムの解釈と記譜法(4分音符、8分音符、3連符、16分音符) ・リズムのヒアリングと記譜法。楽曲の中からドラムパターンをヒアリングし採譜					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	スコアリーディング③ ・楽曲構成の理解とマスター譜の書き方 ・バンドスコア、マスター譜、パート譜の違いについて					
【後期】 21～25回目	イクイップメント① ・ドラムメーカー、シンバルメーカーの歴史と音の特徴 ・スティックの材質、形状による音の違いについて ・フットペダルの調整方法					
【後期】 26～30回目	イクイップメント② ・スネアドラムの各部名称とメンテナンス方法 ・スネアワイヤーの材質、種類、取り付け方法					
【後期】 31～34回目	イクイップメント③ ・シェルの材質による音の違い ・ジャンルや音楽スタイルに合わせた楽器選びについて					
【後期】 35～40回目 (後期試験)	イクイップメント④ ・ドラムヘッドの種類と音の特徴 ・効果的なミュート方法、マイクのりを意識したチューニングについて					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	音楽を通じて社会人として、ミュージシャンとして一人前と呼ばれる人間を目指して日々努力しましょう。					
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	グループ I		授業形態/必・選	実習	必修
	ドラムルーディメンツ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験4年 音楽専門学校在学中ロサンゼルスでの海外研修に参加。卒業後、自身のバンドで年間約200本のバンドライブ活動を経験。その後も様々なアーティストのライブサポート、レコーディング、セッションライブに参加しながらバンド活動も継続。					
授業概要						
ドラムを演奏する上で必要なスティックコントロールや基礎技術を学ぶ。						
到達目標						
基礎実技の充実やスティックコントロールを使用したリズム表現の習得 ・PAS国際ルーディメンツ40 ・オールアメリカンno.2						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	各種楽器のセッティング、名称や使用法、調整の仕方を学ぶ 体の使い方(4種類のストロークの説明とそれらを用いたアクセントストローク)を学ぶ ルーディメンツ40 No.1~No.8(シングルストローク～シックスストロークロールまで)とドラムセットへの応用					
【前期】 6～10回目	チェンジアップ練習による4分、8分、3連、16分、6連、32分の習得 ルーディメンツ40 No.9~No.19(セブンスストロークロール～シングルパラディドルまで) とドラムセットへの応用					
【前期】 11～15回目	ルーディメンツ40 No.20~No.24(フラム～フラムパラディドルまで)とドラムセットへの応用 フラム時の体の使い方(4種のストロークの使い方)とフラムのダイナミクスの解説					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	All American Drummer No.1習得に向けての事前練習 前期内容(フラム、パラディドル)の重点練習 それぞれのルーディメンツを連続して行う際のスティックコントロールの解説					
【後期】 21～25回目	ルーディメンツ40 No.25~No.30(シングルフラムドミル～フラムドラッグまで)とドラムセットへの応用 連続するフラムやフラムを用いた3連符を叩く際のスティックコントロールの解説					
【後期】 26～29回目	ルーディメンツ40 No.31~No.35(ドラッグ～シングルドラッグディドルまで)とドラムセットへの応用 ドラッグ時の体の使い方(4種のストロークの使い方)とダイナミクスの解説					
【後期】 30～33回目	ルーディメンツ40 No.36~No.40(ドラッグパラディドルNo.1～トリプルラダマキュー) とドラムセットへの応用 ドラッグとロールの組み合わせについての説明とスティックコントロールの解説					
【後期】 34～40回目 (後期試験)	All American Drummer No.2習得に向けての事前練習 後期内容(フラム、ドラッグ)の重点練習 それぞれのルーディメンツを連続して行う際のスティックコントロールの解説					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ドラムはバンドの中でも特に目立つカッコいい楽器です。自分の演奏を表現するには様々なスティックワークと練習が必要です。ワールドワイドな授業内容で楽しく学び、世界でも通用出来るドラマーを目指しましょう！					
使用教科書	The All American Drummer: 150 Rudimental Solos (Ludwigmasters)International Rudiments 40					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	スコアリーディング		授業形態/必・選	講義	必修
	理論			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギター/ベース/ドラム/ギターヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
音楽に関する基礎的な音楽理論(ペンソックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。						
到達目標						
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	<b>基礎知識(1)</b> ・音楽記号・拍子記号・音名・音符・休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)					
【前期】 6～10回目	<b>基礎知識(2)</b> ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1) I - II - III - IV - V - VI - VII・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)					
【前期】 11～15回目	<b>基礎知識(3)</b> ・調号、Keyに付いて、#系b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2) I - II - III - IV - V - VI - VII・Major Scale上に出来る三声、四声和音・コードネームの表記方法(2)					
【前期】 16～22回目 (前期試験)	<b>Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant</b> ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か、・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは？					
【後期】 23～25回目	<b>ケーデンスについて</b> ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion (2)・Secondary Dominant(2)Secondary Dominantを使ってみる					
【後期】 26～30回目	<b>転調のパターン / コードプログレッション</b> ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)					
【後期】 31～35回目	<b>Tonic minor Scaleとは(1)</b> ・Tonic minor3種(Natural, Harmonic, Melodic) ・Natural, Harmonicminor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数)					
【後期】 36～40回目 (後期試験)	<b>Tonic minor Scaleとは(2)</b> ・Natural minor, Harmonic minor, Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural, Harmonic, Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	不変的な基礎音楽理論を理解する事で、楽曲に対しての構造や造詣を深める事が出来ますので、是非、修得して自己の音楽活動、楽曲構築、アレンジへのフィードバックが出来ると嬉しく思います。					
使用教科書	必要に応じ適宜PDFにて配布、タブレット端末、五線紙(五線紙ノート)、筆記用具を持参する事。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ベーシック		授業形態/必・選	実習	必修
		ドラムベーシック		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース、サウンドクリエイターコース(選択)					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験3年 専門学校を卒業後、自身のバンドでメジャーデビュー。 現在は様々なアーティストのライブやレコーディングに参加。					
授業概要						
ドラム演奏にベースとなる基礎を学ぶ。						
到達目標						
演奏に必要な身体の使い方と奏法の向上。楽曲におけるドラムフレーズやfeelingを理解できるようにする事。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	セッティング・ドラムセットの体に合う高さを見つける フォーム修正・叩き方・鳴らし方・芯のある音の出す ストローク四種類・フル・ダウン・タップ・アップストローク習得					
【前期】 6～10回目	チェンジアップ・4分・2拍3連・3連・8分・16分音符(5連符/6連符) tempo 60~120 8ビート・バスドラムのパターン4分音符、8分音符で tempo 60~140 オルタネートスティッキング(16分音符パターン)					
【前期】 11～16回目	シンコペーションブック P38 tempo 60~120 ・オルタネートver ・バスドラver バスドラダブル踏み方(スライド・アップダウン) 8ビートBDパターン(16分音符)					
【前期】 17～22回目 (前期試験)	シンコペーションブック P38 3連&16分verアクセント tempo 60~100 足のパターン P38通しでやる(目標ノミス) 16ビートBDパターン(16分音符)					
【後期】 23～27回目	手16分パターンにBDユニゾン(スネア・タム・シンバル) →シングルパターン・バブルパターン tempo 60~120 ダブルストローク(3連パターン・16パターン) パラディドル(ストレート・ディレイド・インワード・リバース)					
【後期】 28～32回目	6ストローク(RLRLRL・RLRRL・RLRLRR・RLRRL・RRLRL) パラディドル(ストレート・ディレイド・インワード・リバース) Feelについて→8分・16分の説明と応用。					
【後期】 33～36回目	シャッフルの説明と応用 ハーフタイムシャッフルの説明と応用					
【後期】 37～39回目 (後期試験)	Feelにあったフィルインの構築方法とその応用					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ドラムの基本を身に付け、より楽しく演奏の幅を広げましょう。					
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルI (前期)		授業形態/必-選	実習	必修
	アンサンブルI			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。					
授業概要						
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバルやライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法やアレンジの方法、聞き手の伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～③課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。						
到達目標						
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～16回目	<p><b>アンサンブルとは何か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認</li> <li>アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介</li> <li>各パートのセッティング方法</li> <li>読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</li> </ul> <p><b>課題曲①～④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。</li> <li>互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。</li> <li>アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。</li> <li>リズムの感じ方及び取り方を合わせる。</li> <li>題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。</li> <li>聞き手を意識したトータルプロデュース。</li> </ul> <p><b>アンサンブルフェスティバルへ向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。</li> <li>アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。</li> <li>スムーズな転換の手順を確認。</li> <li>音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。</li> <li>ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</li> </ul>					
【前期】 17～19回目	<p><b>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セット図の書き方を学び、作成する。</li> <li>アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。</li> <li>本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</li> </ul>					
【前期】 20～22回目 (前期試験)	<p><b>半期のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</li> </ul>					
【後期】 23～37回目	<p><b>アンサンブルとは何か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認</li> <li>アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介</li> <li>各パートのセッティング方法</li> <li>読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</li> </ul> <p><b>課題曲①～④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。</li> <li>互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。</li> <li>アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。</li> <li>リズムの感じ方及び取り方を合わせる。</li> <li>題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。</li> <li>聞き手を意識したトータルプロデュース。</li> </ul> <p><b>アンサンブルフェスティバルへ向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。</li> <li>アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。</li> <li>スムーズな転換の手順を確認。</li> <li>音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。</li> <li>ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</li> </ul>					
【後期】 36～38回目	<p><b>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セット図の書き方を学び、作成する。</li> <li>アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。</li> <li>本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</li> </ul>					
【後期】 39～40回目 (後期試験)	<p><b>半期のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</li> </ul>					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう! ※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。今後の人生を豊かにするために他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう!					
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ(後期)	授業形態/必・選	実習	必修	
	アンサンブルフォロー		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。					
授業概要						
「アンサンブルⅠ」を受講する歌系の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。						
到達目標						
バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前に出来るようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～19回目	<b>「アンサンブルⅠ」課題曲①～④の仕込み</b> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ギャなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習  アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー					
【前期】 20～22回目	半期のまとめ 「前期試験」					
【後期】 23～39回目	<b>「アンサンブルⅠ」課題曲⑤～⑧の仕込み</b> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ギャなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習  アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー					
【後期】 40回目	半期のまとめ 「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	「アンサンブルⅠ」授業では歌唱指導をメインに行いません(合わせる事に注力する)ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンブルフォロー」内で質問や反復練習をし、解決してください。					
使用教科書	無し					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	DAW		授業形態/必・選	講義	必修
	DAW I			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマネージャーとしての活動も行っている。					
授業概要						
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	<b>PCの操作法の指導、Logic Pro Xの操作法の指導</b> ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	<b>各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導</b> ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	<b>ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解</b> ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	<b>「前期試験対策」</b> ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 23回目～35回目	<b>各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成</b> ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ					
【後期】 36回目～37回目	<b>ツーマックスのバウンス作業</b> ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 38回目～39回目 (後期試験)	<b>「後期試験対策」</b> ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても大事です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。					
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用 必要に応じ適宜PDFにて配布、タブレット端末、五線紙(五線紙ノート)、筆記用具を持参する事。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	カウンセリング実技		授業形態/必・選	実習		必修
	エレドラDAW I			年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(76単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ドラムコース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>						
担当講師 実務経歴	実務経験1年 専門学校卒業後単身上京。 ドラマーとして様々なアーティストのライブサポート、レコーディング、テレビ番組などに参加。 現在はドラムと並行してレコーディングエンジニアやメジャーアーティストのマニピュレーターなども担当。						
授業概要							
現在ではどの楽器でも必須となりつつあるPC(DAW)を活用した音楽制作を学ぶ。 また電子ドラムを使い、録音、ライブなどにも活用出来る操作方法、セッティングなどを学ぶ。							
到達目標							
エレキドラムとDAW(Logic)の基本的、応用的操作を習得。 それらを併用した実践的な録音、音楽制作が出来るようになる事。							
授業計画・内容							
【前期】 1～5回目	エレドラの基礎知識、基本操作 ・基本操作方法、セッティング、音色調整 ・生のドラムセット以外の音色(808などのドラムマシンの音色、パーカッション、FXなど)を組み込み、ドラムセットでは表現出来ない可能性を探る						
【前期】 6～10回目	DAW(Logic)の基礎知識、基本操作 ・基本操作方法、オーディオトラックMIDIトラックの理解 ・オーディオデータの取り込み、エフェクトや音源ソフト(プラグイン)の操作方法						
【前期】 11～15回目	エレドラを自分好みにカスタマイズし、楽曲を演奏する ・DAWで好みの曲を録音するにあたって、楽曲に合ったエレドラの設定 ・キット選び、各パーツの設定、リバーブなどの空間エフェクトの調整						
【前期】 16～21回目 (前期試験)	エレドラで演奏した曲をPCで録音する ・DAWとエレドラの接続、設定方法 ・楽曲を実際にDAWで録音						
【後期】 22～26回目	実践的なエレドラ活用法 ・ライブでのパッドとしての活用法 ・内部エフェクトの操作方法						
【後期】 27～31回目	ドラマーにとってのDAWを使用した応用テクニック ・ライブ演奏において、楽曲の同期演奏プロジェクトの作成方法 ・実際にそれらを使用したライブを想定しての演奏						
【後期】 32～36回目	オリジナル音源(既存曲可)録音に向けたDAWでの他パートの打ち込み ・オリジナル音源の作成(ベース、ピアノ、ギタートラックなど)						
【後期】 37～39回目 (後期試験)	エレドラにてオリジナル音源の録音、データ管理、受け渡し方法 ・作成したオリジナル音源を使用し、DAWにエレドラデータを録音 ・録音したデータの管理、受け渡し方法						
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)						
学生へのメッセージ	今の時代、ドラマーであってもPCや電子楽器の操作を習得しておく事は有利な事ばかりです。 損な事は一つもありません！ 様々な現場により良く対応出来る様になる為に、この機会に是非機械に強いドラマーになっていただければ幸いです！						
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布						



専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	イクイップメント		授業形態/必・選	講義	必修
		リズムトレーニング		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験38年 単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず、ジャズはもちろんのことフュージョン、ロック、ラテンと幅広いリズムに精通するオールマイティ。自身のバンドのリーダーとして都内を中心にライブ活動を展開中。					
授業概要						
音楽の三大要素「リズム」にまつわる感覚と知識を、担当楽器によるリズムレ・アセスメントとアカデミー講義から学ぶ。						
到達目標						
専科の楽器演奏の際にBeatをコントロールする感覚とtempoのキープ、そしてFeelのマニピレイトを実現する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	「4分音符アセスメントとリズムの概要」 ・4分音符のテンポキープのアセスメント(♩=60～120)・リズムとは何か ・Beatとは何か ・Beatリズムの世界分布と価値 ・リズム哲学 ・メトロノームの使い方					
【前期】 6～10回目	8分音符アセスメントとBeatとFeelの分類 ・8分音符のキープアセスメント(♩=60～120)・8分音符の裏キープアセスメント ・BeatとFeelとは何か ・Feelの種類 ・ノリの構造分解(縦・横)					
【前期】 11～15回目	16分音符アセスメントとスピード感 ・16分音符のキープアセスメント(♩=60～120) ・フロント・ジャスト・ビハインド ・16分の裏キープアセスメント ・テンポとスピード感の違い ・Feelとスピードのリレイション ・ダブルタイム ・2Beat ・4Bbeat					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	3連と6連のアセスメントとFeelとBeatのキャッチボール ・3連符のキープアセスメント(♩60～120) ・3連の裏キープアセスメント ・音源によるFeelとBeatの聴覚レッスン ・FeelとFILL INのリレイション					
【後期】 21～25回目	トランスフォーメーション、Beatリズムのヒストリー ・各種音符のチェンジアップとアセスメント。・Beatリズムの起源と因果 ・黒人音楽 ・ジャンルとFeelのリレイション ・スピリチュアル ・ダンス ・タメとモタリ、ツッコミと走り。					
【後期】 26～30回目	シンコペーションのアセスメント、プログレス・リズム講① ・シンコペーションキープのアセスメント。 ・Jazz・Classic Blues・Country Blues・Gospel・City Blues・Chicago Blues・Jump Blues・R&B					
【後期】 31～34回目	アドバンス・リズムのアセスメント、プログレス・リズム講② ・シャッフル・リズムの実践とアセスメント。 ・doo-wop ・Modern Jazz ・Modern Blues ・R&R ・Soul ・Norther Soul ・Southern Soul ・Motown ・Stax ・Atlantic					
【後期】 35～38回目 (後期試験)	アーティキュレーション、プログレス・リズム講③ ・包括的総合実習とアセスメント。 ・Funk・Modern Soul・70年代MOTOWN・Sweet Soul・Modern Gospel・Fusion・Disco・Garage ・Black Contemporary・Rap(Hip・Hop)・Contemporary R&B					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	Beatリズムのノリの仕組みを、構造化しリズムトレーニング。 またリズムの起源と進化の過程からジャンルとリズムの関係性を明らかにする。自分のBeatを出せる様に。					
使用教科書	必要に応じ資料・プリントを配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	フィジカルトレーニング I		授業形態/必・選	実習	必修
		ドラムフィジカル		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験12年 2009年個人での活動を開始、ライヴサポート、レコーディング等を主に著名アーティストとも共演。ヴォーカリストやシンガーソングライターのサポートドラマーとしても活動中。					
授業概要						
年間を通した体幹トレーニングによるドラマーに必要な身体作りと、4Wayトレーニングやルーディメンツの応用による手足のコンビネーションを通した両手両足の独立と思考の習得を目指す。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な身体の使い方と、リズムパターン解析の思考方の習得。Feelへの理解を深める。</li> <li>・四肢を独立させることによる、より自由度の高い演奏の実現。</li> </ul>						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	基本的なストロークと体の使い方 ・体幹を含めたトレーニング(プランク1分×3、バードドッグ×2)柔軟体操。(通年) ・練習パッド等を用いた4種類のストロークの説明と使い分けとシングルストロークをのびたリズムの細分化					
【前期】 6～10回目	基本のドラミングフォームの説明 ・両手両足を自由に動かす為のフォーウェイトトレーニング及びボーストレニング ・ストロークの使い分けをのびた8分、3連、16分のアクセントストローク					
【前期】 11～15回目	アクセントストロークをのびたリズムパターンへの応用及び8feel、16feelの理解 ・多彩なクリックを用いた(表拍、裏拍、3連裏等)のリズムの取り方 ・8ビート、シャッフル。8分リズム譜を基調としたリズムパターン練習					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	16分音符を基調としたリズム ・バスドラムの16分音符移動の練習、ダブルキックの習得 ・パラディドルを用いた4Wayトレーニング					
【後期】 21～25回目	のびたストロークとフットワークを使ったコンビネーション(16分基調) ・のびたコンビネーションをのびた応用リズムパターン等) ・様々な手順による16分音符の叩き分けと各種キックパターンの複合練習					
【後期】 26～30回目	左足のハイハットワークの習得 ・フットハイハットを踏み続けながらのリズムパターントレーニング ・音価も含めたハイハットのオープンクローズ奏法の説明と習得					
【後期】 31～34回目	応用技術① ・ダブルパラディドル、トリプルパラディドルを用いた応用練習 ・トリプレットパラディドルを用いたキックパターンとの複合によるメトリックモジュレーション					
【後期】 35～40回目 (後期試験)	応用技術② ・リニアドラミングによるリズムパターン、フィルインの習得(16フィル、6連フィル) ・楽曲のコピーを基にしたリズムパターンの練習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	自分の好きな曲を自由に叩けるようになるためには、ドラミングにおける両手両足のコントロールは必須です。まずはこの授業を通して技術を身に付け、楽しく演奏出来るように成長していきましょう。					
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座	授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習 I		授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習 I			年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (前期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (後期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3～4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5～8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。